

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和4年10月20日 午後1時30分から3時30分まで
3 会場	塩田公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、遠藤委員、小熊委員、倉島委員、小山委員、田中委員、田村委員、富田委員、西入委員、松田委員、宮下委員、安江委員、山岸委員、和田委員
5 市側出席者	【事務局】間宮塩田地域自治センター長、滝沢城南地域振興政策幹、藤沢川西地域自治センター長、小宮山塩田地域振興政策幹、片山地域内分権推進担当係長、城下地域内分権推進担当主査、滝沢地域内分権推進担当主査、村山地域内分権推進担当主査、芳池地域内分権推進担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和4年10月25日

## 協議事項等

## 次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 協議事項

## (1) 調査研究について

会長から資料を基に説明

以下、委員からの主な意見

(委員) 上田市の現状を知りたい。人口的には長野県内で3番目だが、行政サービスなどではかなり低い方だと聞く。他市町村に比べてどんなことが劣っているか明確にわかってくる。資料は市からいただけるのか。今の上田市は進むべき方向性が見えない。どこに向かっているのかわからない。

(事務局) 19市の現状はどうなのか、市が把握しているデータで確認することは可能。

(会長) 市長が考えるようなテーマを我々が考えるというのも、少し主旨が違ってしまう。個別の地域、上田市共通の課題など、テーマを絞ればそれに対する市からの現状説明、情報提供をしてもらうことができるのではないか。

(委員) 市の職員の配置が各地域によってどれだけの割合で当てはめられているか。上田左岸地域で考えるときに、行政と手を組んで課題を解決していかなければならないが、単純に考えても塩田地域の職員配置の割合は低いように感じる。そこも根本的に解決していかないといけない。

(委員) 第8期の川西地域協議会では、地域の公共交通について取り上げた。市長への提言には至らなかったが、普段顔を合わせる事のない地域のメンバーが、共通認識を持っていることを確認した上で取り組んでいったプロセス自体が意味のあるものだと感じる。今の上田左岸地域だと範囲も広く、関心事のテーマが集約できるか不安がある。

(会長)あくまでもみんなで考えていくものなので、地域課題をみんなで話し合っ、認識を深め、意見書として提出できれば市で改善を図れる。

反対意見がないということなので、調査研究を行うということによろしいか。

-調査研究を行うことに決定

以下、委員から調査研究のテーマや活動についての主な意見

(委員)環境整備について、草刈り、ごみ拾いなどは地域のみんなでできるが、崩れている箇所や、歩道橋はもう少し綺麗になればよいと思っている。

(委員)第8期では城南地域で地域防災を担当した。防災を考えるにあたって、地区によって温度差があり、個人のモチベーションがかなり違う。議論をまとめるのに非常に苦労した。今回、分科会を作るにあたっても参加するメンバーのモチベーションをどう高く持っていくか、課題を共通化する動機付けが大事になってくる。

(委員)介護を必要としている高齢者の方々の対応、子育てについて考える必要がある。

(委員)第8期では城南地域で地域店舗の利用促進をテーマに取り組んだ。1期目だったので、地域協議会自体がどのようなものかよくわからず、提言し、実行までたどり着くのがわからなかったが、まちづくり協議会も関わり、実動してくれるということがわかってきた。

今回も産業振興関連のテーマで関わりたい。課題とと思っていることについて、プロである行政の方からお話を聞くと発展につながると思うので、協議会自体は意義のあるものだと感じている。

(委員)第8期では産業振興部会で取り組んだ。部会に分かれて最初の2,3回は、どういう結論にするのか、方向性を決めるにあたり、たくさんの意見があり、なかなかまとまらなかった。最終的には地域課題の一つ一つを棚に上げて、みんなで考えること自体が大事なのでは、という結論になった。

あまり大きなテーマだと市長・市議会での検討テーマになってしまうし、細かすぎる内容だと自治会の内容になりかねないので、中間くらいの内容で各地域の課題が共有できればよいのではないかと。

(委員)今回3分野に分かれて取り組むということは、違う視点から地域づくりの活性化ができると思うので、3分野で情報交換等共有していければよい。

(委員)第8期は交通弱者対策部会で検討を行った。あまりレベルが高すぎてしまうと、かなり時間を要しないと課題を解決できないが、細かな内容をテーマにしてしまうと、地域との格差が出てくる可能性があるため、バランスが大切になってくる。

現在はサイクリングブームで、長野市からサイクリングロードがあるが、第二中学校あたりでストップしている。そこから左岸地域を周るコースを作り、観光と結び付ければ地域おこしにもつながる。

国道143号線の交通量がすごく増えている。今まで地域で横断歩道や信号機改修の申請をしていたが、なかなか実施されていないため、そのような点を含めて協議してはどうか。

(委員)第8期は高齢者福祉の部会に参加していた。介護については専門の保健師さん等をお願いするとして、私たちができることは何かを考えた時に、月に4回(週1度)は顔を合わせる機会が必要と考え、意見書を提出した。地域協議会で留めておくのではなくて、城下まちづくり未来会議と川辺泉田まちづくり協議会にも報告書をお渡しした。地域の課題に即したものが、研究し学んでいくのにはよいのではないか。川西、城南、塩田それぞれ実態が違うので、課題、テーマを見つけるところが大変になると思うが、アンケートや意見交換をして決まったところで、3地域混合のグループに分かれるのがよいのではないか。

(委員)先程意見に出たサイクリングコースについて、何年も前から要望しているが、なかなか聞き入れてもらえないのが現状である。シェアサイクルも設置して終わりになってしまっていて、どうしたら地域の活性化につながるのか、その後の活用について考えることが大事だがそこが抜けてしまっている。

別所線について、このままいくと市民に負担がかかるだけになってしまう。素晴らしいローカル線が残ったため、将来的に負の遺産にならないようにする必要がある。

将来、子どもたちに未来を与えるのが、自分達の役目である。意見を出し合って、皆さんで訴えかけていかなないと市は変わらない。

少子高齢化の中で各組織すべて見直すことになると思う。自分が旅館組合長だった時も、徹底的に組織を変えた。消防団員も然り。消防団員を増やそうといっても、子どもたちが居ないのでできないが、それを消防団員に考えろと言っても無理な話である。一番よいのは地域協議会である。昼間に火災が起きた時、どういう体制で初期消火をすればよいかを考えるのが地域の協議会ではないのか。消防団員の負担軽減にもつながる。以前と同じ仕事量を与えてはいけない。現状を考えて組織を変える。自治会もそうである。仕事量は変わらないから、改革しようとしてもできない。次の組織に向けてどうしたらよいか、考えて提言していくのがこの地域協議会の役割ではないか。

3年、5年後にはこういう組織にすると最初に決めて、話し合いを進めて新しい体制を作っていく。そうすることによって、今の若い世代の負担も減っていく。これが他人事ではなく、自分事にする。ということではないか。

(委員)この一年、各自治会、地区自治会連合会、塩田地域自治会連合会、上田市自治会連合会を経験していて、それぞれやっていることは大変である。行政に要望を出すのが各自治会、塩田地域自治会連合会、上田市自治会連合会、それぞれになるが、今年自治会で行うものと、自治会連合会で行うものを切り分けて行っている。市の自治会連合会としては、自治会一つ一つの負担を減らすため、役員選出についてゼロベースでの見直しの要望を出している。

いろいろなところを横断して動ける組織が大切である。少しでも自治会の役員になるハードルが下がるように動いているが、この動きをご存じない方が多い。自治会の存続に関わるものが10年後に起きるかもしれないし、既に起きているかもしれない。そういうことも共有し別の形で考えていけるよう、地域協議会が力になってもらえるとありがたい。

(委員)交通弱者、少子高齢化で農業の引き継ぎ手がおらず、荒れ地が増えていくのを見て寂しい気持ちになっているが、一人では何もできないので、みんなで話し合いができればよい。

(委員)地域は違ってもやり方は共有できるので、大きなまとまりでテーマが決まればよいが、決まらなくても細かいテーマで取り組んだうえでの情報交換も成り立つのではないか。また、行政にも議論に関わってい

ただ形がとれば、手戻りも少なく効率的にできるのではないか。

(委員) 地域協議会は 3 期目になるが、地域協議会として何が出来るか。高齢者福祉といっても、範囲が広すぎて、その中で絞らないと、話し合いもできない。テーマを絞って、その方向に向かって進むようにしないと、話があちこちしてしまい、まとまらない。地域協議会委員は 2 年任期だから、その中で話合って、もし市に対して意見があれば意見書としてまとめて、それが 1 つの区切りだと思う。その後どう繋げていくかは、これからの課題になってくるかと思う。テーマについては絞ってもらって、その中で議論を重ねてまとめてもらうとよい。

(委員) 皆さん立派な意見をお持ちなので、できるだけ皆さんが発言する機会を多く取っていただければと感じた。上田左岸地域協議会になり、広範囲の皆さんが集まることによって、また違う視点での意見が出るというメリットがある。

## (2) その他

(委員) 東信ジャーナルや市長の Facebook を見ていると、“サテライト市長室” というのが出てくる。直接地域の方とお会いする座談会みたいなものだと思うが、だとすると、地域協議会は何かと感じてしまう。地域の声が聞こえないからサテライト市長室を開いたとなると、地域協議会の今までやってきた意見がきちんと届いているのか疑問である。サテライト市長室で出た意見で、実際政策になったものはあるのか。ただ聞いているだけなのか、それとも各部に渡り検討されて、進んだものがあるのか。

(事務局) 自治センターでは 2 年に 1 度サテライト市長室を開催している。地域の現状や活動の報告をお伝えいただいているもので、要望を出す場とは異なる。

(委員) 昨年度サテライト市長室に参加し、川辺泉田地区ではコミュニティスクールについて、どんなことを行っているか報告した。

来月以降の調査研究の分科会において、希望所属分科会をお知らせいただく。

第一分科会：自治・まちづくり、第二分科会：子育て・福祉・教育、第三分科会：産業地域振興のおおまかな分野に設定。

次回、欠席者を含め各分科会の所属委員（案）をお示しする。

## 4 その他

次回の開催予定

日時 11 月 17 日（木） 午前 10 時から

場所 城南公民館 大ホール

## 5 開会